

3 教科指導

【中学教科】	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
国語	課題 ①基礎学力・学習習慣の定着 ②生徒間の学力・学習意欲の格差 ③新学力観への対応 目標 全員が中三までに高校につながる学習の姿勢態度を確かなものにする	①ノートの確認指導。 ②小テスト指導。 ③予習・復習及び宿題の指導。 ④新学力観に対応するために、語彙力・読解力・表現力・聞き取る力を養成するための教材使用及び指導を行う。 ⑤シラバスの充実	B	ノート・小テスト・宿題の指導により、日常的に国語の学習が以前よりも定着してきた。古典の指導は1年次から古文漢文に親しむ機会を増やし、2・3年次では高校につながる学習習慣を身につけつつあるが、生徒の興味関心や主体的な学習姿勢を引き出す工夫には今後改善の余地がある。新学力観への対応に関しては、中学3年間を見通した学習活動が十分であるとはいえない。また引き続きシラバスの充実を図る必要がある。また、新学力観への対応については、教材作成や授業展開について、教職員の更なる研究が必要であると思われる。また、ICTの活用についても検討しなければならない。学習習慣・基礎学力を身につけさせることはもとより、プレゼンテーションや小論文などにも挑戦し、生徒の興味関心や主体性・積極性を養うための教育活動の充実を図ることが急務であると思われる。
社会	①場面に応じて適切に資料を読み解き、考える力を養う ②社会事象に関心を持ち、主体的に考え行動する力を養う ③歴史分野・地理分野・公民分野に関して、高校での学習に繋がる 基本的な知識を身につけ、理解を深める	①新聞やテレビ、インターネットなどの最新の情報を適切に取り扱い、教科の学習だけでなく、世の中の出来事についての興味関心を持つ姿勢をもつように指導する。 ②歴史分野・地理分野・公民分野の知識・理解を断片的なものとするにとどまることなく、生徒たちに向けて、世の中の出来事を考える上で「活きた知識・理解」とするため、随時調べ学習や意見交換、発表の場を設ける。	①B ②B	①コロナ禍での自分たちの生活はもちろん、世界や日本の状況についても考える機会を常に設けた。 ②視聴覚教材等も用いて、生徒たちの積極的な意見交換をする場を設けた。
数学	①生徒の、中学校数学への興味関心を高め数学的な考え方を育成する ②6年間の指導とその後の各自の進路希望を見据え、進路希望が達成できる数学の学力を養成する ③各クラス間の情報を共有することで教職員相互の連携を図り、学年全体として効果的な生徒の育成につなげる	①授業内容の工夫に取り組み、数学オリンピック、数学検定等へのチャレンジを促し、数学の学習への関心を高める。 ②基本となる授業内容の質を高め、教材の精選を図る ③生徒一人一人が、数学の学習を通して成長できるような指導の取り組みを工夫する。	B	授業への取り組みを通して、生徒の数学への関心を育てることはある程度できたが、まだ十分ではない。 コロナウィルスでの休校による影響で授業の進度や学力の伸長に影響が見られるので3年間のスパンで回復をする必要がある。 教員間の共通理解をさらに進めて次年度に繋げたい。
理科	①科学的興味関心の向上 ②科学的思考の養成 ③科学的態度や知識の積極的な習得	①視覚的な教材をより多く使用する ②実験観察を中心に授業を展開する ③実験観察から見える法則性を見出す能力を高めるように、レポートやノートの書き方の指導を行う	①B ②B ③A	①展示実験をして具体的な現象を見せたが、震災による実験道具の破損でできないこともあった。 ②実験室でできるだけ、実験実習を行なったが、実験装置の数量に限りがあった。 ③レポート指導を行い、実験のまとめ方の指導を行った
保健体育	①体力の向上 ②基本技術の習得 ③事故やけがの予防・防止につとめる (特に熱中症) ④オリンピック・パラリンピックについて知る	①授業始まり時のランニングや体づくり運動を積極的に取り入れる。 ②基本動作の反復練習を根気よく実践する。 ③体育用具や施設の点検、ウォーミングアップはもちろんクールダウンを実践する。また、気温や湿度には特に注意を払い、日陰での休憩や水分補給を心がける。 ④DVDやプリント等の資料を利用しての授業を実施する。	①B ②A ③A ④B	新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防による緊急事態宣言のため、休校やオンライン授業になったため、体力アップや技術力のレベルアップにつながる授業ができなかった。学校再開後も多くの制限があり、ソーシャルディスタンスを基本とした「できる範囲での授業」をおこなった。さらに保健の授業(座学)も実施しなければならず、本年度は体力低下という大きな課題が残った。来年度の授業は、ソーシャルディスタンスを踏まえうえて内容ややり方を工夫して取り組んでいきたい。
技術家庭	①自立の基礎を固める ②共生を学びあう ③現代の社会に対応できる力をつける	①基礎基本の徹底 ②実習、実験内容の精査 ③研修、研究の実施	①A ②B ③B	各学年度の分野に関しても基礎基本を身につけるような授業ができた。実習については、学校での調理などは困難だったが、年度当初のオンライン授業でマスクの製作など今現在の生活に役立つような内容を取り組むことができた。生活設計についても将来を見通し、一生に使うお金やどんな住まいに住みたいかということに関してそれぞれで調べることができた。
外国語	①基礎・基本の徹底⇒学習習慣・基礎学力の定着を図る ②語彙力を伸ばす 英語力を養う ③(読む)(書く)(聞く)(話す)4技能の育成	①定期的、課題、ノート提出、小テスト・考査後の復習・単語テスト・対外模試の受験を実施 ②単語集や辞書の活用 ③対外模試(Z会)受験(それに向けて講義を実施) ④CTECの受験	B	新型コロナの感染拡大の影響で、休校やオンライン授業のため、継続的な取り組みが十分とはいえなかった。オンライン授業での板書や、学校再開後の授業での、発音・会話の練習などには以前と違い、いろいろな配慮や工夫が必要となった。今後の授業においては更にやり方を工夫し取り組んでいきたい。

4段階評価

A：大いに改善あり B：だいたい改善あり
C：やや改善なし D：全く改善なし